

# 身体拘束の判断基準の明確化（実施記録としての活用）

## 1. 対象者(患者)の状態

三原則の適応

☐ なし

☐ あり → ☐ 切迫性：行動制限を伴わない場合、患者の生命または身体が危険にさらされる可能性が高い

☐ 非代替性：行動制限以外に患者の安全を確保する方法がない

☐ 一時性：行動制限は一時的であること

症状 → ☐ 激しい体動   ☐ 転倒・転落の危険   ☐ 不穏な状態   ☐ 意識障害

☐ その他 \_\_\_\_\_

## 2. 身体拘束目的

☐ ライン類の自己抜去防止   ☐ 転倒・転落防止   ☐ 安静保持   ☐ 自傷行為防止

☐ 創部の保護   ☐ 脱衣・不潔行為防止   ☐ その他 \_\_\_\_\_

## 3. 身体拘束方法

☐ 4点柵   ☐ 安全帯（☐ 右手   ☐ 左手   ☐ 右足   ☐ 左足）

☐ ミトンの装着（☐ 右   ☐ 左）   ☐ つなぎ服   ☐ 車椅子の安全帯   ☐ てんとう虫

## 4. 身体拘束時間

☐ 24時間継続   ☐ 夜間のみ   ☐ 一時的   ☐ 処置時

## 5. 拘束期間

開始日 \_\_\_\_\_ から   解除予定日 \_\_\_\_\_

（注）掲載にあたり一部改変